

食料・農業・農村政策審議会家畜衛生部会

第7回プリオン病小委員会（6月22日）

（概要）

国際獣疫事務局（OIE）による我が国のBSEステータスの認定や、諸外国のBSE対策、我が国のBSE対策について、事務局から資料に沿って説明。委員からは、次のような意見があった。

- ・ OIEは、不明なリスクの国も含めてデータの評価を効果的に行う観点から、サーベイランスのカテゴリーを区分して臨床症状牛に高いポイントを与えている。我が国のように飼料規制等BSE対策が有効に機能し、有病率が低い国において、臨床症状牛がどのように見つかっているか、これまで得られた我が国のデータを分析してみる必要がある。その際、臨床症状牛の取扱いについては、OIEの定義及び我が国における陽性例がどのような症状を示していたのかをよく検討し、高リスク牛の定義の指標とすべきである。
- ・ EUでは、BSE対策について、適宜必要な見直しを行っている。農林水産省も、OIEによる認定を踏まえ、今までの死亡牛検査に関するデータを整理するなど、今後に向けたBSE対策の検証をしてはどうか。また、その際には、リスクコミュニケーションが重要となる。